

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105636
法人名	有限会社 公昌会
事業所名	グループホームひめやまの里
所在地	松山市山越3丁目6番15号
自己評価作成日	H25年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	H25年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・何よりも「私の家族だったら!」と、強い気持ちを持ちながら支援に取り組んでいます。 ・交通量の多い国道沿いではあるが、緑もあり桜の季節にはピンクの花びらがいつの間にか風にのってきたり、鳥のさえずりも聞こえます。 ・正面が病院ということもあり緊急時などは医師や看護師が24時間対応してくれ安心した生活を送る事ができます。 ・交通の便が良く家族がホームへ立ち寄りやすい。又近くにはスーパーが多くあり買い物しやすい環境です。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●職員の入れ替わりがほとんどないことが、ご家族の安心につながっている。毎月、ご家族が利用料を持参される際を捉えて、職員は利用者の暮らしぶり等を報告し、ケア等への要望を聞くようにされている。利用者の誕生会を行う日には、ご家族と相談して決めておられ、遠方からご家族やお孫さん、ひ孫さん等が来られることもある。 ●職員は、「利用者を人生の先輩として尊敬し、ご家族が不快に思うような言葉かけはしない」よう心がけて対応されている。耳が不自由な利用者には、簡単な手話を職員が覚えて、コミュニケーションを取れるように取り組まれている。調査訪問時には、食事がすすみにくい利用者には職員は無理強いせず、時間をかけて対応されていた。昼食のカレーライスに使用するスプーンは、利用者の状態に合わせて小さ目のスプーンを用意したり、希望に応じて箸を用意されていた。利用者間でトラブルがあった時には、個々に居室で過ごす時間を持ち、お好きな編み物等をしながら落ち着いた時間を持てるように支援されている。
--

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームひめやまの里

(ユニット名) 3階

記入者(管理者)

氏 名 山守 道枝

評価完了日 平成 25年 9月 15日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 尊厳の保持・自立の支援・自己実現(基本的人権の保護・家 庭的な生活・生きがいのある生活)の理念のもと介護してい る。事業所理念を皆が見える所に掲示し、職員も理念につ いて理解し毎日の介護につなげていくよう努力している。	
			(外部評価) 理念は、玄関や各ユニットに掲示されている。毎月行う2ユ ニット合同の職員会議時には、理念に沿ったケアが実践でき ているか確認されたり、検討・相談を行っておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 季節ごとに施設行事を実施し、地域の方も招待しふれあい ができるようにしている。地域のボランティアによる出し物(伝 統的な獅子舞・日舞・トーンチャイムの演奏)など日常的に皆 で交流している。	
			(外部評価) 中学生の職場体験を受け入れておられたり、大学生が見学 に来られることもある。近隣の幼稚園との交流を続けておら れ、運動会や敬老会、クリスマス会等に招かれ、利用者は、 園児と一緒に楽しい時間を過ごされている。又、公民館で行 われる地域の夏祭り時には、ラムネやかき氷等を食べて祭り の雰囲気を楽しまれ、浴衣姿の子ども達を見て、「かわいい ね」と喜ばれたようだ。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で報告していると同時に入居者にも参加して 頂くことで認知症の方の理解を深めてもらっている。又身近 に相談できる窓口があることも知らせている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 二ヶ月に一度開催しており入居者の家族にも参加して頂けるよう声かけに努めている。市の職員や包括支援センターの職員、地域の方々も交え、ホームの状況や行事の報告等をし、意見を聞きサービスの向上に生かしている。毎回テーマを決め参加しやすい、楽しめる場になるよう努めている。	
			(外部評価) 会議について、ご家族から「参加しづらい」という声があり、現在は、「ピアノ演奏会」「避難訓練」「クリスマス会・忘年会」「利用者と一緒にリハビリ体操、壁画づくり」等の行事と合わせて開催されている。近隣の住民の方の参加も増えて、毎回、7～8名の方が参加してくれている。10月の会議から、「ご家族や地域の方の役に立つようなテーマ」を取り上げ、資料等も配布して勉強する機会を作っておられ、まずは時期等も考慮して、「インフルエンザについて」学ばれた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議には市職員、地域包括支援センターの方にも毎回来て頂き報告している。又運営の対応について適宜相談している。	
			(外部評価) 市の担当者の方は、運営推進会議に、毎回参加して下さっており、事業所行事に参加していただく等して活動を知ってもらっている。事業所からの声かけで、10月の会議時からは、市社協の方が参加して下さっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関はいつでも出入りできる。入居者の安全の為しっかり見守りをしている。又スタッフ間で常に声かけ合っている。優先順位を考え介護するように日々試行錯誤している。	
			(外部評価) 日中、玄関は施錠せず、散歩をしたい利用者には職員が付き添い、支援されている。身体拘束に関する外部研修時には、職員が交代で参加し、全員が受講できるよう取り組まれている。事業所内でも、年1回は、身体拘束をテーマにして勉強会を行っておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待が見過ごされる事のないように注意を払い防止に努めている。身体的虐待だけではなく言葉の虐待についても会議で話し合いしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在成年後見制度を利用している方はいない。制度が理解できていないスタッフもいるため、今後勉強する機会を作りたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約を結んだり、解約をする際は内容を十分に時間をかけ説明し理解・納得を図っている。契約後一部をお渡しし、不明な点がある場合は再度説明し、納得していただいている。改定の際は家族に来て頂き口頭説明し同意書をとっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を置いている。意見、不満などは受け入れ職員間で話し合い、その結果は家族へ説明している。又家族面会時には入居者の様子を詳しくお伝えし、家族の要望も聞きそれを日々のケアに組み込んでいる。 (外部評価) 職員の入れ替わりがほとんどないことがご家族の安心につながっている。毎月、ご家族が利用料を持参される際を捉えて、職員は利用者の暮らしぶり等を報告し、ケア等への要望を聞くようにされている。利用者の誕生会を行う日にちをご家族と相談して決めておられ、遠方からご家族やお孫さん、ひ孫さん等が来られることもある。2ヶ月に一度、ご家族に向けて発行する「ひめやま新聞」には、利用者の「ふだんの顔が見えるように」写真を満載しておられ、ご家族は「日頃の笑顔が見られたり、どんなことをしたのかがよく分かる」と楽しみにされている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			(外部評価)	
			管理者は、「自分で考え、行動できる職員を育てていきたい」と考えておられ、毎月の職員会議時、職員からの意見を聞いておられる。勉強会時には、「トイレ介助の際の支え方」「言葉かけ」「緊急時の対応」「薬効」等、テーマを掲げて勉強されており、「統一したケア」を目指して取り組まれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査で時間をかけお話を聞くようにしている。家族とよく話し合い、介護についての要望、不安に思っている事を聞き理解するように努めている。本人と家族、ホームとのより良い関係作りを心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居の際ホームの見学をして頂き、本人の意向と、家族の意向を聴取している。必要としている支援をくみ取れるよう努力しケアプランに生かせるようにしている。医療関係とも連携し対応ができるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の暮らしを一番に考え、安心して暮らせるよう入居者同士が和やかに過ごせるよう職員が間に入り話をしたりしている。自分ならどうしてほしいか考え行動している。日常生活の中で一緒にできる事を見つけてしている。(洗濯畳み、食材チェック、作品作り等)	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) スタッフと家族とのコミュニケーションを持ち色々と話し合っている。季節ごとの行事参加の声かけしたり、ホーム内で何か変わった事、伝えておくべき事ができた場合には、家族へ報告、連絡をし詳しく伝える事に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居者の知り合いの方の訪問や郵便物などがある場合には家族に了承の上で本人と交流が持てるよう支援している。外出や食事会などもできるように、面会時間の制限を設けていない。 (外部評価) 地元から利用している方が多く、近所の友人が訪ねて来られることもある。中には、幼なじみと一緒に、ホテルで食事をされたり、写真の展覧会に出かける方もいる。1週間に一度、身内から写真付きのハガキが届く利用者がおられ、利用者からお返事を出せるよう支援することもある。塗り絵等、色を塗ることが好きな利用者は、近々、ご家族に絵手紙をつくり送る計画がある。お正月には、ご自宅へ帰る方やご家族とお墓参りに行かれる方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 毎日レクリエーションを行い入居者同士交流が持てるようにしている。入居者同士が居室を行き来されお話ししたり、リビングに誘うなどしている。又食事の声かけもしてくださる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了してもこれまでの関係を大切にして何か相談があればお手伝いできるように努めている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 希望を言える方に対しては聞き取りをし希望を実現できるよう支援。言えない方には家族に聞いたり生活の中での楽しみを把握し本人本位の生活ができるよう努力している。ケアプランを作成し日常生活の支援に活かしている。 (外部評価) 利用者の希望等は、介護記録に記録して職員で情報を共有されている。「私のわかること、わからないことシート」を用いて、利用者の状態の把握に努めておられる。耳の不自由な利用者には、手話や筆談で思いを汲み取って支援されている。時には、新聞の記事がきっかけで、みなでふるさとの思い出話をされることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査や家族からの情報をもとに細かい部分まで把握するように努めている。本人との会話の中からこれまでの暮らしや覚えている事を聞き、把握に努めている。以前からの習慣は継続できるよう環境を整えている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の申し送りで一人ひとりの健康状態などを確認し合っている。又バイタルチェックを行い一人ひとりをよく観察し心身状態の把握に努めている。できる事などはしていただきその人が有する力を出せれるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			毎月の職員会議に個々の報告・問題点について話し合っている。本人・家族の希望、又主治医にもアドバイスを頂き計画に反映している。職員等の意見などを取り入れ課題の共通認識を持つ事で介護計画を作成する事に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			介護計画は、3ヶ月ごと、又、状態変化時に見直しをされている。毎月の職員会議時には、一人ひとりの利用者についてカンファレンスを行っておられ、課題とケアのあり方について話し合われている。筋力の維持向上を図れるよう、介護計画に「歩行訓練・マッサージ」等を取り入れているケースもある。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			かかりつけ医へは定期的に受診・リハビリを行っている。その他の歯科、心療内科などは往診していただけるようになっていたが、その他の科には家族に協力して頂き継続して治療が受けられるよう援助している。必要な買い物等もスタッフが行う事もある。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域のボランティアを招いてホームで楽しむ機会を設けている。伝統芸能(獅子舞)、トーンチャイム、幼稚園への訪問、町内の夏祭り、など地域と交流し楽しんでいる。食事の中で地産地消の物を使用している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 定期的にかかりつけ病院へ受診、定期薬の処方を受けられるよう支援している。受診時には普段の様子が分かるようにバイタル表や介護記録を持参している。又受診以外でも往診や電話での相談や説明にも応じていただき支援している。	
			(外部評価) 母体病院をかかりつけ医とされている方が多く、利用者は、定期的な受診以外でも往診を受けられるようになっている。昼食後の服薬支援時には、職員が2名で「誰の何日の昼の薬」と、声に出して確認しながら支援されていた。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 常に看護師と連絡が取れるようにしている。日常生活に変化があれば記録に残し様子が分かる様にしている。困った事や不安な事を相談できるような関係作りに努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時・退院時には医師・看護師・家族・ホーム職員と情報交換し医師からの病状説明等にも同席させていただいている。今後の事についても三者で相談できる場を設け適切な治療が受けられるようにしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りや重度化したときのアンケートを入居時にとっている。重度化した場合や終末期になった時にはもう一度家族と話し合うようにしている。医師・看護師・ホームスタッフで症状の変化の度に協議を重ねている。	
			(外部評価) 職員は、利用者の「最期までホームで過ごしたい」という言葉があれば、ご家族に伝えるようにされている。現在、半数ほどのご家族が事業所での看取りを希望されているようだ。この2年間で事業所では数名の利用者の看取りを支援されており、終末期には、利用者の状態に応じて、食事をミキサー食にしたり、アイスクリームを口にできるよう支援する等、利用者の気持ちに寄り添った支援に努めておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時対応マニュアルを作成し病院・医師・看護師へ連絡がつながる様になっている。入居者の毎日の体調や変化について細かく申し送り記録している。電話のところに連絡方法が分かる様に書いている。定期的な勉強会が必要。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に防災訓練を実施している。入居者・地域の方も参加され、電話のかけ方や消火器の使い方も消防署の方に指導を受ける。近所の方が協力してくれるようになっている。スプリンクラーや消防署へ直通電話などが設置されている。 (外部評価) 6月に夜間の火災を想定した避難訓練を実施された際には、近隣の方にも協力いただき、避難した利用者の見守りを願われた。近隣の方からは「協力は惜しまない」と言ってもらっているようだ。消防署の方からは、「消火器を慌てず使うように」等と、アドバイスをいただいた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 生活暦や家族構成など色々な面を考慮して、本人が自然な振る舞いが出来るよう言葉かけ・対応している。 (外部評価) 職員は、「利用者を人生の先輩として尊敬し、ご家族が不快に思うような言葉かけはしない」よう心がけて対応されている。耳が不自由な利用者には、簡単な手話を職員が覚えて、コミュニケーションを取れるように取り組まれている。調査訪問時には、食事がすすみにくい利用者には職員は無理強いせず、時間をおいて対応されていた。昼食のカレーライスに使用するスプーンは、利用者の状態に合わせて小さ目のスプーンを用意したり、希望に応じて箸を用意されていた。利用者間でトラブルがあった時には、個々に居室で過ごす時間をもち、お好きな編み物等をしながら落ち着いた時間を持てるように支援されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) あらゆる場面で言葉かけしている。難聴で意思疎通の困難な入居者には筆談で行っている。スキンシップをはかり、表情等から読み取り対応に努めている。申し送り等で情報を共有するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) レクリエーションの時間等で入居者から何がしたいのか聞い たり自己決定を尊重している。リハビリ体操や大勢でトランプ など楽しむこともしている。個々で塗り絵や折り紙などの作品 作り、編み物、雑誌を読むなど自由にも過ごしていただいて いる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 定期的に美容師に来てもらったり、個々の馴染みの化粧品 や髪留め、スカーフを身に着けられている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の感想等をお聞きしリクエスト食・季節のものも取り入れ ている。準備や片付けなどは個々の能力に応じた部分でス タッフと一緒にしていただいている。(じゃがいもの皮むき・も やしの根っことり、コップの片付け等) (外部評価) 業者の献立に沿って食材が届くようになっており、一日分の 食材をアレンジしながら食事を作っておられる。母体病院の 栄養士から助言をもらうこともある。食べるスピードが速い利 用者には、職員が隣に座って同じものを食べながら、「少し 手を休めましょうか」等と声をかけながら支援されていた。訪 問調査時、下膳する利用者の様子がみられた。月に1度、手 作りおやつの日を設けておられ、利用者と季節感のあるお やつ作りを楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 個別に食事を調節し、一人ひとりに合わせてお粥、刻み、 ミキサーにしている。又食べられない食材等は職員全員が 把握できるように掲示している。水分補給は食事以外にも飲 用する時間をとっている。体重測定も定期的に行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを実施している。一人ひとりに合わせて職員 が見守り、介助している。又定期的に義歯の洗浄を行い口 腔内を清潔に保っている。本人の希望や口腔状態に応じて 歯科往診も行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			排泄チェック表で個々の状況を確認し時間毎の声かけ、誘導を行いトイレでの排泄ができるように支援している。日々の改善を心がけ一人ひとりの排泄パターンを理解し対応している。トイレは場所が分かるように張り紙をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(外部評価)	
			居間に面したトイレには、トイレ内にカーテンを付けて、戸を開けても他者から見えないように配慮されていた。入院中おむつを使用していた利用者が退院して来られた場合は、声かけや誘導等を重ね、トイレで排泄できるよう支援されている。	現在、トイレに近い利用者が多いようで、夜間も何度もトイレに行かれるようだ。原因等も探りながら、利用者の安眠も含めて支援を検討してみてもはどうだろうか。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			状況に応じて機会浴・一般浴・清拭・足浴などを行っている。毎日入浴できないが順番に公平に入浴できるようにしている。入浴時間は午後になっており希望時間は反映できていない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(外部評価)	
			利用者個々に、週に2～3回入浴できるよう支援されている。現在、入浴を嫌がる利用者が多いようだが、一人ひとりにゆっくり時間をかけて支援しておられ、声かけを工夫したり、時間を置き対応したりして、入浴につなげておられる。ひとりで入浴する方には、安全に入浴できるよう、脱衣所で様子をうかがいながら支援されている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 入居者一人ひとりが内服している薬の内容を理解し用法・用量を守り内服していただいている。症状の変化があった場合は看護師・医師に報告し指示を仰いでいる。又日付け・名前を確認し飲み込むまで見守り確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日リハビリ体操をした後入居者の希望を聞き読書・塗り絵・折り紙・トランプ等楽しみ気分転換ができるようにしている。又洗濯物を畳んでもらったり、食事の準備などできる事は一緒にしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 行事として気候のいい時に外出を取り入れている。家族にも協力して頂き外食や買い物に行かされている。海辺のドライブは好評だった。 (外部評価) 利用者の身体レベルに合わせて、数名ずつで外出できるよう支援されている。夏場は、車から出なくても楽しめるよう、介護度が重度の方も海までドライブされた。外出前は気がすすまない方も海が見えると喜ばれたようだ。介護度が軽度の方は、日常的に、散歩がてら近くのスーパーへ買い物に出かけられるよう支援されており、実際にスーパーに行くと、「これが食べてみたい」等、希望を言われることもあるようだ。お寿司がお好きな利用者が多いため、11月には、回転寿司へ出かけることを計画されていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) スタッフと一緒に買い物に行き、支払いもスタッフと一緒に行っている。皆との外出時も本人が欲しい物を買われる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも電話が使用でき、本人からの希望があればスタッフがかけて本人に代わったりしている。手紙も本人が書いたものを家族に見てもらいよければポストに投函している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 一日の大半を過ごされるリビングには壁画や入居者が制作される月ごとの作品を貼り季節の移り変わりを感じていただけるような空間作りをしている。エアコンなどで温度や湿度にも注意し快適に過ごせるように努めている。テーブルや洗面所には花を飾ったりしている。	
			(外部評価) ユニットごとに職員を固定せず、利用者がユニット間を自由に行き来しても対応できるようにされている。調査訪問時には、居間には利用者手作りのくす玉を飾っておられたり、壁には運動会をテーマにした飾り付けがされていた。利用者が色を塗ったり、折り紙を貼り、職員と一緒に2ヶ月ごとに作っておられる。夏場にはエアコンで冷え過ぎないように、利用者の立場で室温を調整することを心がけられた。調査訪問時には、テーブル席でトランプを楽しまれる利用者の様子がみられた。掃除専門の職員を配置し、又、年1回は、業者で床のワックス掛けや、各居室のエアコンのフィルター・換気扇等を掃除してくれるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファに座ったり、椅子に座って雑談を楽しまれたり、仲の良い者同士でお話ができるよう場所作りをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホームでベッドとチェストは用意している。他は自宅で使用されていた使い慣れた物を持参していただいている。家族さんが花や人形、家族写真等を持って来られ、それぞれ居室は個々の生活にあった場所となっている。	
			(外部評価) 居室の入り口に、自筆の表札を掲げている方もいる。ご家族との記念写真を飾っておられたり、ドレッサーを持ち込み化粧品を並べている方もみられた。幼稚園児からプレゼントされた絵や、ご本人の手作り作品等も飾っておられる。観葉植物を置き、世話する方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) エレベーターや要所には手すりが設置されている。ホーム内は段差もなく安全に過ごせる。居室のベッドも高さが入居者により合わせられるようになっている。居室の入り口には目線に合わせた高さで名前を大きく貼ったり、トイレも大きく表示したり、できるだけ自立できるよう工夫している。	